

ワケ カタチには理由がある(29)

～コンベアF-107Aデルタダガー～



[↓YF-102 と～エアールールの実証例]



本機は、1953年に初飛行したアメリカ空軍の迎撃戦闘機です。フランスのミラージュのようなデルタ翼を有していました。「ネズ爺&ハテニヤンの特許探偵団 vol.5」で取り上げたように、この機体は、機体の形状で性能を向上させられるという「エアールール」の有効性を、身をもって体現した機体でもあります。その試作機 YF-102 と比べると、基本的な構成は同じでも、全長が長くなり、また胴体部分がまるでコカ・コーラのビンのようにくびれていて、同機はこの形状変更によって音速を超えることができました。かつては、米国空軍が使っていた板付空港、いまの福岡空港にも駐屯していたこともあり、空港のターミナルビルの壁面にもこの機体が描かれているようです。なお、コンベア社(Convair)の名前は、Consolidated Vultee Aircraft Corporation から来ており、同社はかつて大戦中に B-24 やカタリナ飛行艇を生産していた会社でもありました。

【模型について】

中国のモンモデル社(MENG)製の 1/72 のキットです。新しい技術レベルで開発された美しいモールドのキットです。ファルコンミサイルを胴体内に収納しますが、それまで唯一の 1/72 キットであったハセガワ製のものは、扉を開放した状態しか作れなかったのに対して、こちらは開閉を選択できます。何でもないので、**「扉を閉める派」**にとって胴体に綺麗にフィットしないドアパーツを加工するのは一苦労で、大変ありがたい構成です。一緒に写真を写した YF-102 は前回(28)の C-45 の銀塗装の手法を教えてくれた T さんの作品で(メーカーは確か WhiryKits)、さすが銀塗装マイスター、シルバー塗装が美しいです。(中川裕幸 2021年6月)